



Topics / Insight

2015年11月の注目ディール：米ファイザーによるアラガンの買収

2015年12月12日

本件の概要

2015年11月23日、米製薬大手のファイザーとアイルランドの同業大手アラガンは合併することで合意したと発表しました。これはファイザーによる事実上のアラガン買収で、買収総額は1600億ドル（約19兆7000億円）と今年世界最大の案件となります。2014年に製薬業界首位の座をノバルティスに奪われていたファイザーは、本件により医療用医薬品の売上高が565億ドル（両社の2014年売上高の単純合算）となり、再び首位に返り咲くこととなります。

本件のストラクチャー

本件では、アイルランドに形式的に本社を置くアラガンの100%子会社である事業会社とファイザーが合併します。この合併に先立ち、アラガンは株式分割を実施して1株を11.2株に分割しますので、旧アラガン株主は1株あたり統合会社株式11.2株を受け取り、一方、ファイザーの株主は合併によって株式1株あたり統合会社株式を1株受け取ります。その結果、旧アラガン株主と旧ファイザー株主の統合会社に対する持株の比率は44:56となる予定です。両社のプレスリリースによると、2015年10月28日の株価を基準にした場合、旧アラガン株主は30%以上のプレミアムを受け取るようになるとのことです。

2016年下半期中に予定される本件統合後、存続会社であるアラガンはファイザーに名称変更をします。新会社のCEOにはファイザーのイアン・リードCEOが就き、オペレーション上の本社機能は現在ファイザー本社があるニューヨークにおかれますが、形式上の本社はアイルランドです。

アラガンは後発薬事業をイスラエルのテバ・ファーマシューティカルに405億ドルで譲渡することを2015年7月に決めたばかりで、そのクロージングは2106年第1四半期を予定しています。大型案件の進行中に本件のような買収劇が実施されるスピード感は、日本企業を見ているだけでは想像が出来ません。

ファイザーからみた本件の意義

ファイザーにとって本件買収は、大きく2つの意味があると言われています。一つは主力品であったリピトールの特許切れによる売上の減少に対し、新薬候補のパイプライ



Topics / Insight

ン獲得を含めて製品ラインアップの拡充を図ること。もう一つは「タックスインバージョン」と言われる租税回避のための本社移転です。法人税率が 35%と高い米国から低税率国であるアイルランド (12.5%) に本社を移すことにより、統合後の最初の 1 年で現在 25.5%の実効税率を 17~18%に引き下げる見込みです。買収によって規模拡大を進めるのは、これまでファイザーが得意としてきた戦略ですが、本件ではタックスインバージョンによって新たな損益構造へ転換を図ることが重要なポイントです。

但し、米国財務省ではこうした海外逃避に対する規制強化を進めており、また大統領選を控えたヒラリー・クリントン氏やドナルド・トランプ氏も痛烈な批判を繰り返しています。今後当局による認可手続きが、順調に進むか注意が必要でしょう。

日本の製薬メーカーへの示唆

日本の製薬市場において新薬メーカーが直面する状況も、基本的には米国企業と同じです。政府は 2020 年度までに後発薬の処方比率を 8 割以上とする方針を打ち出しており、後発薬シェアが高まることは確実です。一方で、創薬ニーズがあるのがんや認知症など開発の難易度が高い物や患者数の少ない希少疾病ばかりと言われていています。そのため、各製薬メーカーは開発余力確保のために規模の拡大を追求するか、開発のための人材や資金を特定分野に集中するかの二者択一が迫られています。

近年、国内製薬メーカーによる海外同業他社の買収が増えてきています。成長を続ける国内医薬品市場の下で業績が好調であるうちに、事業領域強化を進めているといえるでしょう。但し、国内最大の武田製薬も世界に出れば 15 位に過ぎません。スピード感を持って大型再編を繰り返す海外の大手製薬メーカーと戦っていくためには、規模の拡大とは異なる着目点が必要です。

<問い合わせ先>

ベネディ・コンサルティング株式会社

Mail: info@benediconsulting.jp

Web site: <http://benediconsulting.jp>